

『憧れ』 作：ポチ子

誰かに憧れた瞬間に、

その人の作品を観なくなる。

何かになりたいと思うと、

何もしなくなる。

喉から手が出るほど欲しいものを、

わざわざ自分から遠ざける。

別に飽きたわけでも、

嫌いになったわけでもない。

ただ、自分がそうなれないかもしれない。

そう思うのが、怖い。

逃げれば逃げるほど、

それは、手に届かないものになる。

それでも、自分が無力だと感じるよりはマシだ。

私の感情はきつと憧れではない。

私は、その人自身でありたいのだ。

その人の環境や努力、才能、運、

全てを苦勞せずに入りたい。

そんな身勝手な願いを隠しているだけ。